

| | | |
|---|--------|-----|
| 科目名称： | 日本国憲法 | |
| 担当者名： | 斎藤 みどり | |
| 区分 | 授業形態 | 単位数 |
| 基礎教育科目 | 講義 | 2 |
| 授業の目的・テーマ | | |
| 第1回で日本国憲法および大日本帝国憲法に対する現時点における認識を確認し、第2回以降、憲法の成立過程・内容を具体的に考察する。憲法は自分たちとは関わりがない、あるいは難しくよく分らないと考えたり、憲法が存在を意識することなく社会生活を送っている場合がほとんどであるように思われる。しかし、憲法は私たちの国の「かたち」を決めるものであり、「きまりの中のきまり」である。本授業においては、条文を丁寧に読み、憲法に関するさまざまな問題について裁判例や映像を通し共に考え、憲法に対する関心・理解を深めることを目的とする。特に第三章の基本的な人権に重点を置く。また、新聞を読むことにより、現実の社会との関わりを確認していきたい。 | | |
| 授業の達成目標・到達目標 | | |
| 「憲法が、その国の性格をきめてしまう・・・」といわれます。憲法に定められた条文を読み、その内容が理解できる。さらに、社会状況を踏まえながら現実の社会生活と憲法の関わりを考察できることを目標とする。 | | |

| 基礎教育科目 | ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | 重点項目 |
|--------|--|------|
| DP(1) | 自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。 | ○ |
| DP(2) | 様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。 | |
| DP(3) | 専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。 | |

| 評価方法/ディプロマポリシー | 定期試験 | クイズ 小テスト | 提出課題 (レポート含む) | その他 | 合計 |
|----------------|------|-------------|------------------|-----|-----|
| 全学DP(1) | | 40 | 40 | 20 | 100 |
| 全学DP(2) | | | | | 0 |
| 全学DP(3) | | | | | 0 |
| | | | | | 100 |

| 実務経験のある教員の担当 | 担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載） | |
|--------------|--------------------------|---------|
| なし | 《内容1》 | 《経験年数1》 |
| | 《内容2》 | 《経験年数2》 |
| | 《内容3》 | 《経験年数3》 |
| | 《内容4》 | 《経験年数4》 |
| 備考 | | |
| | | |

| 到達目標ルーブリック | すばらしい | とてもよい | よい | 要努力 |
|---------------------------------|---|--|---|---------------------------------------|
| 日本国憲法・大日本帝国憲法 の特色・成立過程に関する理解 | 両憲法の特色および成立過程を相互に関連づけて体系的に理解し、現在の課題に対して主体的に考察できる。 | 両憲法の特色・成立過程をそれぞれ正確に理解し、現在の課題を指摘することができる。 | 両憲法の特色・成立過程を理解しているが、その相互関係および現在の課題に関して不十分なところがある。 | 両憲法の特色・成立過程に対する理解が不十分である。 |
| 日本国憲法の各章・条文に関する理解 | 日本国憲法の各章・各条文の意味するところを正確に理解し、身近な問題として主体的に捉え課題解決に取り組もうとしている。 | 日本国憲法の各章・各条文の意味するところを正確に理解し、現実の社会との関わりを指摘することができる。 | 日本国憲法の各章・各条文の意味するところを正確に理解している。 | 日本国憲法の各章・各条文に対する理解が十分ではない。 |
| レポート・記録(ファイル)の作成 | 学修・視聴した内容を主体的にまとめ、それに基づき確かな学修内容以外の観点も含めて多面的に考察している。 | 学修・視聴した内容を正確に記録しており、それに基づいて的確にテーマとの関連を考察している。 | 学修・視聴した内容を不足なく記録しているが、考察において記録との関連性が不十分である。 | 学修・視聴した内容の記録が不十分であり、テーマに関する考察も不十分である。 |
| プレゼンテーション力(新聞発表) | 新聞記事の内容理解的確で、比較分析も記事の形式だけでなく主張の違いやその背景など深く多面的に分析しており、発声も優れ聞き手にその内容が良く伝わる。 | 内容理解・比較分析が的確になされ、よく発声もはっきりしており聞き手によく伝わる。 | 内容理解や発声はしっかりしているが、比較分析が表面的である。 | 内容理解・比較分析・発声ともに不十分であり、意図するところが伝わりにくい。 |

| 授業の内容・計画 | 事前事後学修の内容 | 事前事後学修時間(分) |
|---|---|-------------|
| 第1回 日本国憲法・大日本帝国憲法の構成 日本国憲法の構成に関する理解度を、クリッカーを使用して調べる。また、条文構成を表にすることにより、両憲法の特色を探る。 | (事後学習) 両憲法の条文構成を確認し、特色を把握しておく。 | 30分 |
| 第2回 憲法とは何か：日本国憲法の全体像を通して、憲法の性格を探る。 | 教科書P34～39を読み、その特色を確認しておく。新聞第一面のチェックの課題をやっておく。 | 30分 |
| 第3回 明治憲法について 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) | 配布資料の理解および新聞第一面チェックの課題をやっておく。 | 40分 |
| 第4回 日本国憲法の成立過程1：配付資料により成立過程の概要を把握する。 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) | 配付資料に目を通し、空欄を確認する。新聞第一面チェックをやっておく。 | 40分 |
| 第5回 日本国憲法の成立過程2：ビデオを視聴し、成立過程の特色を把握する。 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) | 前回配付資料により、成立過程の概要をまとめておく。新聞第一面チェックをやっておく。 | 40分 |
| 第6回 憲法前文：前文の現代語訳(意訳)をグループワークで行い、発表する。 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) 確認小テスト | 前回までの内容を確認しておく。憲法前文の重要語句の意味を調べる。新聞第一面チェックをやっておく。 | 40分 |
| 第7回 天皇 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) | 教科書p44～45に目を通し、また重要語句の意味を調べておく。新聞第一面チェックの課題をやっておく。 | 40分 |
| 第8回 戦争の放棄：ビデオを視聴し、レポートを作成する。 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) | 教科書p46～47に目を通し、また重要語句の意味を調べておく。新聞第一面チェックの課題をやっておく。 | 40分 |
| 第9回 基本的人権(自由権)・確認小テスト 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) | 前文～前回までの内容を確認しておく。重要語句の意味を調べておく。新聞第一面チェックをやっておくこと。 | 40分 |
| 第10回 基本的人権(社会権) 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) | 教科書p48・49、58～62に目を通し、また重要語句の意味を調べておく。新聞第一面チェックの課題をやっておく。 | 40分 |
| 第11回 基本的人権(参政権・平等権) 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) | 配布資料に目を通し概要を理解しておく。新聞第一面チェックをやっておくこと。 | 40分 |
| 第12回 基本的人権(受益権) 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) | 配布資料に目を通し概要を理解しておく。新聞第一面チェックをやっておくこと。 | 40分 |
| 第13回 国会・内閣・司法、地方自治 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) | 教科書p62～p69に目を通し、また重要語句の意味を調べておく。新聞第一面チェックの課題をやっておく。 | 40分 |
| 第14回 子どもの人権1：憲法条文との関わりをグループワークで調べる。 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) 確認小テスト | 憲法第3章の条文に目を通し、子どもの人権に関わる部分を把握しておく。基本的人権～前回までの内容を確認しておくこと。 | 40分 |
| 第15回 子どもの人権2：子どもの権利条約および国内法との関係 | 配布資料に目を通し、重要語句の意味を調べておく。 | 40分 |

準備学習時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と準備学習を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
準備学習としては、重要語句の意味調べや概要把握、新聞第1面チェック等を指定用紙に記入しファイルしておくこととなる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
小テスト40% 授業レポート20%、新聞課題20%、授業への積極的関与(ファイル作成など)20%で評価する。

課題に対するフィードバック

小テストは採点后解説する。授業レポート・ファイルは評価して返却。新聞課題はルーブリックで評価。

教科書・参考書

井上ひさし『子どもにつたえる日本国憲法』(講談社)(毎回の授業で使用する)
その他、授業の中で判例等の資料を適宜配布し、参考書についても示す。